

平成27年度発掘調査遺跡の紹介

に たん わり 二反割遺跡

(上越市三和区大字岡木地内ほか)

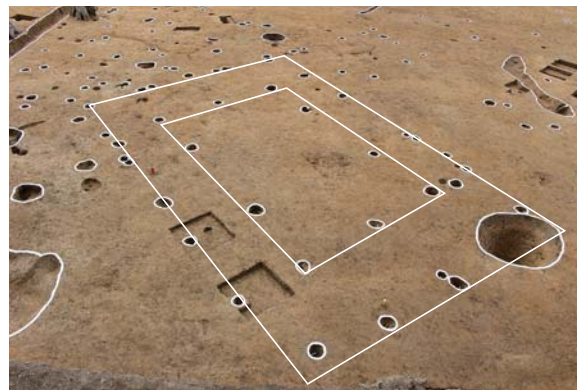
二反割遺跡は、飯田川右岸の自然堤防上に立地する中世(12世紀)の遺跡で、標高は約14.5mです。国道253号上越三和道路の建設に伴い、平成27年7月から調査を行っています。調査面積は2,580㎡です。調査の結果、掘立柱建物や井戸、溝、土坑などを検出しました。遺物は古代の土師器や須恵器、中世の土師質土器や珠洲焼、木器などが出土しました。遺構出土の遺物が少ないため、遺構の時期を決定することが難しいですが、柱穴の形状・規模・埋土、建物の主軸が平成23年度調査の建物と一致することから、それと同じ中世(12世紀)の集落と考えています。掘立柱建物の周辺に井戸が位置する遺構の配置も共通します。

掘立柱建物は9棟検出しました。四面廂建物・片面廂建物・総柱建物がそれぞれ1棟ずつで、そのほかは側柱建物です。これらの建物は、主軸がほぼ正方位を指し、建物同士で柱筋を揃えるなど、計画性の高さがうかがえます。総柱建物は4×5間(6.9×8m)で、平成23年度調査の総柱建物2棟と柱筋を揃え、3棟の建物が直角に位置するように配置されることから、相互に関連していることが分かります。建物同士の距離も約19~21mで、ほぼ等間隔です。四面廂建物は主軸がほぼ東西を指します。2×3間(4×6.2m)の身舎の四面に廂が付き、廂を含めると6.8×10mの規模になります。四面に廂が付く建物はこの1棟のみで、遺跡内での中心的な建物と考えています。井戸は6基検出しています。規模は、直径2m前後のものものと1m前後のものがありますが、いずれも井戸側のない素掘りの井戸です。井戸の中からは下駄や漆器の破片が出土しました。その他には、珠洲焼や磨石などが出土しています。

二反割遺跡の建物は、一定の間隔を保ち計画的に配置され、建物同士に重複が少ないことが特徴で、集落が比較的短期間で移転したことが分かります。今後、周辺の集落遺跡の動向を合わせて検討することで、飯田川流域の中世の様相が解明されることが期待されます。(山崎忠良)



調査区全景(東から)



四面廂建物(北西から)



井戸の断面

いし ふな と ひがし 石 船 戸 東 遺 跡

(阿賀野市大字百津・上中野目・福田ほか)

石船戸東遺跡は、阿賀野川あがのがわの旧流路にできた百津瀧ももづがたの縁に広がります。国道49号阿賀野バイパス建設事業に伴い約13,000㎡を4月から発掘調査をしてきたところ、縄文時代晩期（約2,500年前）、平安時代（約1,200年前）、鎌倉時代（約600年前）の遺跡を発見しました。ここでは、遺跡の主体となる鎌倉時代の集落を紹介します。

遺跡は、3つの大字おおあざにかかることから分かるように、東西700mにも及ぶ広範囲に広がります。ただし、そのすべてにまんべんなく遺構が検出されたのではなく、遺構がまとまる範囲は大きく3か所に散在していました。いずれの範囲からも遺物はあまり出土していませんが、陶磁器の年代から、いずれも13世紀ころに築かれた集落と考えられます。最も遺構の集中する範囲では、掘立柱建物ほったてばしらたてもの10棟を検出しました。建物は、東西南北方向を強く意識して建てられ、建て替えも行われていることが分かりました。ただし、今回の調査範囲は集落の縁辺部に当たり、核心部分は調査範囲外に広がると見られます。

また、直径3mの大型井戸を1基検出しました。ここには、1辺80cmの正方形の井戸側いどがわ（井戸の補強材）が設置されていました。中でも、縦板に刳り船くがねと見られる大型の木材を再利用している点が注目されます。刳り船とすれば船首側と船尾側を切断して、向かい合うように立てて、井戸側としています。刳り船を再利用する事例はまま見られますが、2.5m以上の長さが残っており、遺存状況の良さは北陸地方でも有数です。阿賀野バイパス関連調査では、中世に内水面交通を利用した流通の様子が見えつつあります。刳り船であれば、内水面交通の存在を裏付けるものといえそうです。来年度以降に取り上げ、整理していく過程から、全貌を明らかにしていく予定です。

(加藤 学)



遺跡近景（白線範囲が調査対象範囲）



鎌倉時代の集落（掘立柱建物）



鎌倉時代の大型井戸（直径3m）



大型井戸の井戸側（手前が刳り船材と見られます。）

平成27年度整理作業遺跡の紹介

六反田南遺跡中・下層（石器編）

（糸魚川市大字大和川字六反田地内）

六反田南遺跡は、糸魚川市街地の東を流れる海川下流の右岸の沖積地にあります。北陸新幹線及び糸魚川東バイパスの建設に伴い2006～2013年まで8年間の発掘調査を行いました。2006～2009年の発掘調査は既に報告書が刊行され、昨年度からは2010～2013年に発掘調査した地区の整理作業を行っています。遺跡は3層に分かれ、上層は弥生時代・古墳時代・古代、中層は縄文時代中期中葉、下層は中期前葉～中葉のムラが見つっています。

今回は中・下層の石器群の特徴をいくつか紹介します。中・下層のムラは、それぞれ10棟前後の竪穴建物で構成され、洪水堆積層で覆われていました。他時期のものが混じらない極めて良好な状態です。石器の出土数は、中層：約1,300点、下層：約17,000点で大きな差があります。これは下層では役目を終えた土器や石器、食料の食べかすなどを捨てた廃棄域が見つかったことによります。中・下層はともに磨製石斧やその未製品及び工具の敲石（ハンマー）や砥石、材料の原石（透閃石岩類）が多く出土しています。盛んに斧作りしていたことが明らかですが、作り方に違いが見られます。通常、磨製石斧は一つの方法から剥離・敲打・研磨の工程を経て一つの製品が作られます。下層では材料を石鋸で擦切り、2つ以上の石斧を作る擦切技法も行われ、擦切磨製石斧や同未製品、工具の石鋸が多く出土しています。これに対して中層では、それがほぼ皆無です。

次に、中・下層では石錘（おもり）が出土し、特に下層では大量に出土しています。1kgを超える大型品から30g程度の小型品までいろいろなものがあります。漁猟も盛んに行われていたと推測されます。しかも、廃棄域の魚骨の分析では、サケ科・タイ科・サメ類をはじめとするさまざまな魚骨が見つかり、これを裏付けています。このように石器群を見ることで、この村の生業が明らかとなりました。

このほか糸魚川地域でしか採集できないヒスイがたくさん出土していますが、これを用いた玉は出土して

いません。ヒスイは、その硬さから敲石として利用されていました。ヒスイ製の大型の大珠が多く作られるのは、この時期より後です。ヒスイを用いた本格的な玉作りの上限が明らかとなりました。また県内最大級の石棒の大きさや出土状況も注目されています。

（高橋保雄）



右：長さ11.9cm

磨製石斧製作工程（左：原石→右：完成品）



台石：長さ49.0cm

工具の台石（右上）と敲石（左下）



左上：長さ12.2cm

擦切磨製石斧（上）と石鋸（下）



石棒（長さ：100.4cm、重さ31.8kg）



右上：重さ1,251g

石錘

「新潟県教育委員会保管出土品展示会〈上越展〉」を開催

当事業団では、新潟県教育委員会の委託を受け、長年にわたり上信越自動車道や北陸新幹線などの建設に伴う発掘調査を上越市内で行ってきました。平成27年10月10日から12日の3連休に、上越妙高駅前オープンしたばかりの上越市歴史館「釜蓋遺跡ガイダンス」において、これらの発掘調査の出土品を地域の皆様にご覧いただく展示会を開催しました。上越市で2回目の開催となる今回の展示会は、『人が動く、ものが動く－発掘調査で探る上越の交流と物流－』と題し、弥生時代から中世までの上越地域と他地域との「交流」を示す出土品を中心に、約200点を展示しました。



展示会の様子

展示会には、3日間で300名近い方にご来場いただきました。来場者の中には、新幹線の待ち時間を利用してお見えの方もいたようです。北陸新幹線の開業で県外との往来がますます活発な上越市ですが、古来から交通の結節点として発展してきた地域の歴史を物語る出土品をみなさん興味深くご覧になっていました。

「第20回遺跡発掘調査報告会」を開催

9月6日（日）に柏崎市文化会館アルフォーレにおいて、柏崎市教育委員会・新潟県教育委員会と共催で「第20回遺跡発掘調査報告会」を開催しました。柏崎市教育委員会がこれまで調査した市内の主な遺跡について、新



展示会の様子



報告会の様子

潟県埋蔵文化財調査事業団が平成25・26年度の発掘調査成果について、それぞれ報告を行いました。また、発掘調査成果を出土遺物や写真パネルなどを用いて展示し、各遺跡の担当者が遺構・遺物について解説しました。

お忙しい中、報告会や展示会にお越しいただき、ありがとうございました。

なお、当日配布資料は当事業団ホームページ「おしらせ」内「発掘調査報告会」でご覧いただけます。

(<http://www.maibun.net>)

埋蔵文化財センター展示替えのお知らせ

上記「第20回遺跡発掘調査報告会」の展示品の一部を平成28年2月1日から埋蔵文化財センターに展示する予定です。当日の展示をご覧になれなかった方は、是非お越し下さい。

体験活動報告

体験活動として、6月7日「にいつ花ふるフェスタ」（申込不要）、8月8・10・16日「親子考古学教室」（申込必要・各回20組）、9月19日「まいぶん祭り」（申込不要）を行いました。

「にいつ花ふるフェスタ」「まいぶん祭り」では滑石製の勾玉作りやマイギリ法による火起こし、バックヤードツアー（施設見学）などを行いました。「まいぶん祭り」では、着火速度を競う火起こし選手権が好評でした。バックヤードツアーでは保存処理室や整理室、収蔵庫などを巡り、特に保存処理室では木製品の防腐処理や金属製品の防錆処理を熱心にご覧いただきました。

「親子考古学教室」では小学生（3年生以上）と保護者が火起こしや土器作り・勾玉作りを行いながら、昔の暮らしに思いを巡らせました。最後に作品と記念撮影をし、夏の思い出を残しました。



まいぶん祭り(火起こし)



親子考古学教室(土器作り)



まいぶん祭り(保存処理室見学)

校外学習・出前授業の受け入れを行っています

主に小学校社会科授業の一環として、遺跡をとおして縄文時代や弥生時代の生活を具体的に思い描くことができるような取り組みを行いました。

本物に触れる体験では「縄文土器は意外と重い。」「石鏃が刺さったら痛いだらうな。」など、教科書や展示見学だけでは得られない感想が上がりました。埋蔵文化財センターにおける展示見学では今年度から新たに導入した「まいぶんワークシート」に記入しながら見学することで、宝探しをするように積極的に展示物に見入っていました。火起こし（マイギリ法）、勾玉作り、黒曜石の剥片^{ほくへん}で物を切る体験も、便利な現代の道具から比べて当時代がいかに大変だったのか考えるきっかけとなっています。

平成28年度も積極的に校外学習や出前授業に対応します。下記活動例のように周辺施設も合わせた複合的な校外学習をお勧めしています。詳細についてのお問い合わせなどは（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団普及班までお気軽にどうぞ。



まいぶんワークシート

活動例

☆複数クラスは入れ替え制で対応できます。
9時30分 活動開始

新潟県埋蔵文化財センター

- センター紹介他
- 火起こし体験
- 石器使用体験
- 館内見学

徒歩約10分

古津八幡山遺跡歴史の広場

- 史跡公園にて復元された竪穴住居や古墳を見学
- ガイダンス施設 弥生の丘展示館にて展示を見学

金津層の露頭

- 地層見学

バス約15分
14時30分 活動終了

見学だけでも構いません。多くの学校のご来館お待ちしております。

校外学習の実施が難しい場合は出前授業に対応します。こちらもお気軽にご相談ください。

県内の遺跡・遺物91

深鉢形土器／新潟県堂平遺跡出土

(平成18年6月9日 国指定重要文化財(考古資料))

(遺跡所在地：中魚沼郡津南町大字中深見 所有者：国(文化庁) 保管：津南町歴史民俗資料館)

堂平遺跡は、新潟県中魚沼郡津南町に所在する遺跡です。信濃川の支流中津川の右岸、標高約470mの段丘上に位置します。平成8年5～9月に国営総合農用地開発事業に伴って発掘調査が行われ、縄文時代中期中葉から後葉を中心とする集落跡であることが判明しました。調査面積は8,960㎡で、堅穴住居跡62軒、炉跡13基、長方形柱穴列3棟をはじめ土坑多数が確認されています。北側に住居群、南側に土坑群が確認されました。指定を受けた深鉢形土器2点は、いわゆる火焰型土器と王冠型土器です。

火焰型土器は、遺物集中区から出土したもので、底部を欠損しています。鶏頭冠突起を含めた推定の高さ37.4cm、鋸歯状の口縁までの高さ27.5cm、口径33cmで、火焰型土器としては一般的な大きさです。口縁部には縦長で右方向を向く4個の鶏頭冠突起が付き、その下にトンボ眼鏡状突起があります。口縁は鋸歯状で、トンボ眼鏡状突起の間には楯状文と袋状突起が付き、また基隆帯と半隆起線による連続横S字状文が認められます。胴部にも上半に連続横S字状文があり、その下には逆U字状の懸垂文が見られ、胴部中央には袋状突起が付きます。

王冠型土器は、柱穴からの出土で、短冊形突起1個を欠損するのみでほぼ完形に近いです。短冊形突起を含めた高さは27.6cm、口径21.6cm、底部径12.8cmで、王冠型土器としてはやや小ぶりです。短冊形突起は4単位で、頂部にはトンボ眼鏡状突起が付きます。王冠型土器の特徴である頂部の扱りは左側にあります。鶏頭冠突起の向きが左右両方認められるのに対して、王冠型土器の扱りの向きはほとんどが左側です。口縁部の主文様は基隆帯によるS字状文で、縦横に配され、また、基隆帯上には刻みが付されます。胴部には火焰型土器と同様に横S字状文、逆U字状の懸垂文が付されます。

火焰型土器や王冠型土器を含む隆帯系の土器を総称して“火炎土器”と呼んでおり、今から5,000年ほど前の縄文時代中期中葉に信濃川流域を中心とした新潟県ほぼ全域に分布した土器群です。

この堂平遺跡出土の2点は、残りも極めて良好で、「一切の空白部を排除した土器表面の装飾技法は縄文土器の造形美、器面装飾法の極致を示し、美術・工芸的にもきわめて水準の高い資料であり、その学術的価値はきわめて高い」(以上、文化庁国指定文化財等データベース：詳細解説から)ことから重要文化財に指定されました。新潟県内ではほかに、十日町市笹山遺跡出土の火炎土器が国宝に、長岡市馬高遺跡出土の火炎土器が重要文化財にそれぞれ指定されています。

参考資料：『津南町文化財調査報告書 第59輯 堂平遺跡』
 [新潟県中魚沼郡津南町教育委員会 2011]
 『火炎土器の国 新潟』[新潟県立歴史博物館 2009]
 文化庁国指定文化財等データベース：詳細解説

資料提供：津南町教育委員会



撮影：小川忠博

王冠型土器と火焰型土器



部位名称

埋文にいがた No.93

発行 (公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
 〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1
 TEL (0250) 25-3981
 FAX (0250) 25-3986
 E-mail: niigata@maibun.net
 URL: http://www.maibun.net
 印刷 阿部印刷株式会社